

日本政府観光局（JNTO）が18日発表した10月の訪日客数は前年同月比44%増の182万人と、単月で最高の7月（191万人）に次ぐ水準となった。国・地域別では中国が前年同月の倍となる44万5千人で首位。10月1～7日が国慶節の連休で訪日客が伸びた。韓国や台湾など他のアジア各国の伸びも目立った。円安基調や、これまでの

訪日客44%増 10月も高水準

単月で過去2番目

査証（ビザ）の発給要件緩和などが寄与した。

1～10月の全体の訪日客数は1631万人と年間で最高だった昨年（1341万人）をすでに上回っている。

一方、観光庁の田村明比古長官は記者会見で、パリで13日に起きた同時テロの影響について

「観光交流進める」

同時テロ受け観光庁長官

「長い目でみて観光交流が萎縮せず促進できる環境を各国政府や業界とつくる必要がある」と述べた。

同時テロ以降、日本の一部旅行業者は自主的にパリへの旅行を中止しており、田村長官は「安全を第一にした対応は理解できる」と述べた。観光庁は日本人旅行者の安否確認を進めているが、被害情報は入っていない。